

NEW! コーナー

■ 決算特別委員会の委員長報告

私が委員長を務めた決算特別委員会は、9月定例会での設置以降、延べ9回にわたり委員会を開催し、平成22年度の歳入歳出決算ならびに公営企業決算について審査を行って参りました。

平成22年度予算は、湯崎知事が就任後初めて編成された当初予算であり、知事の新たな挑戦のための「仕込みと基盤づくり」の予算でもありました。

また、年度中途には庄原市を中心とした豪雨災害や緊急経済・雇用対策にも対応した補正予算を編成し、機動的な事業執行に取り組んできたところであります。

こうした22年度決算の概要は、

- ・一般会計：歳入歳出差引額119億円、実質収支45億円の黒字。
- ・特別会計：歳入歳出差引額74億円、実質収支72億円の黒字。
- ・公営企業：病院事業は平成元年以来21年ぶりの純利益（3億円）を計上。
工業用水事業・水道用水事業はそれぞれ3億円、24億円の純利益。
一方、土地造成事業は5億円の純損失でありました。

委員会においては、予算執行の適否や行政効果について審議を行い、今後の県政に反映すべき点を知事へ提言して参りました。その主な意見としては、

- 今年度で終了する国の緊急経済・雇用対策について、延長等を国へ働きかけ
- 県立大学を地域社会に貢献する人材の拠点として位置づけと支援
- 産業として自立できる農業の確立に向け、流通販売体制の確立など6次産業化の推進
- 赤字が続いている土地造成事業の見直し
- 円高対策・中小企業支援策の充実や立地助成制度の拡充・再生可能エネルギーの促進など新たな企業誘致の展開
- 凶悪犯罪・悪質犯罪の徹底検挙、中学校・高等学校の更なる学力向上 など、38項目を取りまとめ、12月19日の定例会最終日に、決算特別委員会の委員長報告を行いました。

【決算特別委員会 総括審査】



【本会議での委員長報告】



決算委員会の様子

